

日本語での IP 編集

ウィキメディア財団のために、以下の者によって作成されました。

加藤るり
須田富士子

プロジェクト工房、K. K.

はじめに 3

調査方法 3

日本における IP 編集 5

匿名性と日本文化 5

日本語版ウィキペディアのコミュニティの力学 8

IP 編集と荒らし行為 9

ペルソナ 11

ペルソナの概要 11

ウィキペディアのコミュニティに参加している 12

ケン：知恵の探求者 12

クミコ：門番 13

門番の下位互換：ウィキペディア自警団 14

ユウト：利他主義者 14

ウィキペディアのコミュニティに参加することを望んでいない 15

エミ：趣味人 15

タロウ：実利主義者 16

カナ：ステルス marketer 17

結論 18

追加の引用 18

はじめに

本報告書は、日本語版ウィキペディアにおける IP 編集の状況を、文化的側面とウィキペディア編集者からのインタビュー、及び調査回答を参照しながら調査したものです。

第1章では、文化的属性、コミュニティの力学、荒らし行為について調査し、IP 編集の概要を説明します。第2章では、エスノグラフィックインタビューに基づく日本のウィキペディア編集者のペルソナを紹介しながら、彼らの取り組みに関連して示された、記録するという彼らの決断に焦点を当てます。

その結果、一部の日本人の利用者にとって、匿名性はウィキペディアに投稿するための不可欠な条件であることが明らかになりました。これらの利用者にさらなるアクセス性を与えることは、広く利用可能で無料の百科事典として機能することによって読者に利益をもたらすというウィキペディアの狙いを高めることになるでしょう。

調査方法

データ収集は、日本語版ウィキペディアで配布された募集アンケートによって行われました。インタビュー参加者は、このアンケートの回答者と、日本の人材紹介会社である [unii リサーチ](#) からも募集しました。

8人の回答者を選び、エスノグラフィックインタビューを実施しました。様々な背景を持った回答者を選び、編集経験の長さや、巡回の経験、ウィキペディアにログインする決断をしたことなどに関して、幅広い洞察を得ることができました。

5人の回答者は、Zoom を使った 60 分の詳細なインタビューに参加しました。3人の回答者は、テキストベースの質疑応答インタビューに参加しました。このインタビューのために、5日間かけて3通の質問メールを送り、回答者がその回答をメールで送り返しました。

それぞれの回答者に関連する質問を行いました。質問内容と回答は追加の引用に記載されています。

日本語版ウィキペディアで配布した募集アンケートには、アンケートの告知を、[通知メッセージ](#)として自発的に再掲載した日本人編集者の努力により、787件の回答がありました。そのうち97件の重複回答は、その後削除されました。

日本における IP 編集

匿名性と日本文化

- 匿名での投稿は、日本文化における謙虚さと真の寛容さを意味します。
- 日本のオンラインフォーラム 2ちゃんねるは、日本のインターネット文化における匿名性の普及の基礎を築きました。
- ウィキペディアの利用経験が浅い人たちは、オンラインコミュニティは、ログインしているかどうかに関わらず、敵意の温床であると認識しています。
- ウィキペディアの匿名性は、（個人を特定できるような）個人情報の露出をできるだけ避けたい利用者にとって不可欠です。
- インターネットの匿名性は、気軽な雑談や論争の的になるような話題での会話を容易にします。
- ウィキペディアの匿名性は、利用者が争いに巻き込まれることなく投稿できるようにします。これは、争いを避けようとする典型的な日本人の性格によく合っています。

匿名性は、日本人と日本のインターネット文化を顕著に表しており、複雑な特性でもあります。これは文化的に好まれる特性であり、インターネットのコミュニティの重要な特徴です。

実生活において、匿名での寄付は、見返りを求めない無私で謙虚な行為として、日本では深く尊敬されてきました。例えば、[2010 年代前半に孤児院に寄付をした匿名の寄付者は、メディアから大いに賞賛されました。](#)

「ウィキペディアに投稿することを慈善事業と考える IP 編集者もいます。彼らはただ善意でやっているのです。彼らは自分たちの行為に対する称賛を必要としません」 - *善意の IP 編集者について好意的に語る、ログイン済みのウィキペディア編集者*

匿名性は日本のインターネット文化の特徴でもあり、ウィキペディア編集者の中には、日本のウィキペディアコミュニティの基礎としてそのことを挙げる人もいます。ウィキペディア編集者は、インターネットにおける匿名性を標準化した主要な発信源として、1999年に設立された日本最大のオンラインフォーラムの1つである [2ちゃんねる](#) についてはっきりと言及しました。編集者は、2ちゃんねるのようなサイトがあるからこそ、日本のウィキペディアでは IP 編集が一般的で容認されているのだと述べています。

また、多くのインターネット利用者、特にインターネットのコミュニティにあまり馴染みのない人たちが、匿名性を恐れたり、不信感を抱いたりするのは、2ちゃんねるのようなサイトのせいでもあります。例えば、2ちゃんねるは、しばしば誤りや憎悪に満ちた内容で悪名高いです。それを可能にしているのは、利用者の匿名性と、匿名性の結果として、書き込んだ内容に対する説明責任から逃れる余地を作り出したことです。相手と直接対決するのではなく、陰口を叩くのは日本人の典型的な性質であり、ある回答者はインターネットの匿名性と非常に相性が良いと指摘しています。この匿名性への恐れが、他の編集者との衝突を避けるためにログインをしない、あるいは井戸端会議に参加しないなど、一部のウィキペディア利用者の投稿を制限しているのです。

「ウィキペディアのコミュニティは、悪い意味で2ちゃんねるに似ていると思います。自分が書いたものに対して悪意を持って攻撃されることがあります」 -他の編集者とのコミュニケーションを避けるウィキペディア編集者

注目すべきは、この発言には、インターネットのコミュニティが敵対的であるという本質的にネガティブなイメージがあるように思えることです。この考え方は、ログイン済みの編集者はIP編集者と同様に、ネット上の人格と実際の人物が切り離されているという意味で匿名であり、それによって、自分の行動の責任を問われることなく罵倒する自由を与えられているという理解の上に成り立っています。

匿名性には負の側面がありますが、インターネット上のコミュニケーションにおいて必要な選択肢の1つであるとも考えられます。日本のネット利用者に多いと言われる感情であり、悪用されることを恐れてネット上に個人情報公開することに慎重な人にとって、匿名性は不可欠なものです。ウィキペディアの場合、ユーザー名だけではすぐに身元がバレないとしても、編集履歴がアカウントに紐づくことで、投稿内容の特徴から手がかりを得ることができます。したがって、ネット上の偽名に関連する情報は少ないほどよく、そもそもIP編集のようにペルソナを設定しないのが最も安全です。あるログイン済みの編集者は、自分のユーザー名に本名を入れないと言い、そのことを次のように説明しています。「投稿を編集するために、ソースとして利用した資料が特定の図書館にしかない場合、住んでいるおおよその場所を特定されるかもしれません。たまたまユーザーネームに本名が含まれていた場合、人々はこれらすべての手がかりを組み合わせ、あなたを特定し、嫌がらせをする可能性があります」

インターネット上の匿名性のもう一つの利点は、社会的立場にとらわれない自由な言論が可能になることです。匿名と実名、両方のインターネットのコミュニティを経験したログイン済みの編集者は、匿名性の利点について以下のように述べています。「気軽に雑談をしたり、議論を呼ぶような話題でも安全に会話することができます。発言するために自分の正体を明かさなければならないのは、（日本人にとって）あまりにも敷居が高いのです」

この行動は、争いを避け、調和を好む日本人の性質に根ざしています。私たちがインタビューをした 8 人の編集者のうち 5 人は、IP 編集は、争いに巻き込まれず投稿したい人たちにとって必要な選択肢であると述べています。それに関して、ある IP 編集者は次のように語っています。「ウィキペディアで争いを見るのは嫌なものです。彼らは（公の場で）それをするべきではないでしょう」

日本で匿名性が好まれることを物語る例として、ツイッターとフェイスブックの人気の差があります。須田富士子は、日本におけるツイッターとフェイスブックの調査プロジェクトに数多く参加してきました。調査の結果、日本でのツイッターの人気は、[2021 年時点で利用者数 5800 万人と他国に比べて突出しているのに対し、フェイスブックの利用者数は 2240 万人で、ツイッターほど多くないことがわかりました](#)。フェイスブックは利用者の身元を明らかにする必要がありますが、ツイッターは匿名のため、利用者が本名などの個人情報を公言する必要がありません。日本の利用者は、オフラインへの影響を心配することなく自由にコミュニケーションができる安全な空間として、ツイッターをより安心して利用する傾向があるようです。これに対し、フェイスブックは個人情報を公開しすぎており、より窮屈あると考えられています。

日本語版ウィキペディアのコミュニティの力学

- ログイン済みの編集者は、日本語版ウィキペディアのコミュニティは敵対的であると考えています。
- 記事の内容に関して、複数のログイン済みの編集者が意見を異にする場合、対立が起こりがちです。
- IP 編集の性質上、ログイン済みの編集者は IP 編集者と直接コミュニケーションができないため、ログイン済みの編集者と IP 編集者の間に対立は生じません。
- コミュニティ内で派閥を組むことが多く、自らの計画を実現するために操作されます。
- 多くの編集者は、対立を避けるために IP 編集を選択します。
- ログイン済みの編集者は IP 編集者の意見を信用しません。

経験豊富なログイン済みの編集者は、日本語版ウィキペディアのコミュニティが敵対的であると感じています。ログイン済みの編集者は IP 編集者と直接コミュニケーションができないため、ログイン済みの編集者と IP 編集者の間で対立は生じません。その結果、ログイン済みの編集者には不満が残り、IP 編集者はそれに気づかないという一方的な関係になってしまうのです。

コミュニティ内の敵対心に関しては、それは主に、ログイン済みの編集者間の対立に起因しています。記事の内容に関して複数の編集者が意見を異にする場合、争いが発生する傾向があります。インタビュー及びアンケート

内では、編集の争いに不当な支配力を行使し、他の編集者に様々な嫌がらせをされると思われる編集者に憤慨する回答者が何人かいました。

日本語版ウィキペディアのコミュニティ内で形成された派閥もまた、意思決定の方法に影響を与えていると言われています。ある回答者は、ウィキペディアのコミュニティの規模や性質を「村社会」に例えています。村社会とは、小規模で孤立し、排他的であることを特徴とする伝統的な農村社会の一種を表す日本語の用語です。この文脈において、コミュニティメンバーとは、ウィキペディアに継続的に投稿するログイン済みの編集者のことです。編集者たちが、互いに非常に親しくなるこのコミュニティの緊密な性質は、自分の計画を実現するために使われる派閥の温床となります。(2人の回答者は、一部の編集者はウィキペディアのコミュニティの外や、ツイッターのようなソーシャルメディア上でつながっていると述べています)。回答者は、よく知られた編集者/管理者が最近、派閥を有利に操ることによって、コミュニティ全体の紛争を引き起こしたという特定の事例について詳しく語っています。その編集者は複数のアカウントを作成し、利用者間の衝突を引き起こしていました。この衝突により、チェックユーザーや管理者の辞任が繰り返されました。回答者によれば、事態は深刻で、ウィキメディア財団が心配して調査に来るほどだったと言います。

日本語版ウィキペディアのコミュニティにおける前述のような敵対的な性質は、嫌がらせや争いに巻き込まれるのを避けるために、ログインしない選択をする人がいることの決定的な理由として、多くの編集者に言及されています。実際に、現在のIP編集者はさまざまな紛争を解決するのに疲れすぎて、ログインすることをやめ、匿名での編集に切り替えたと言っています。この編集者は二度とログインするつもりはないと言っています。

IPアドレスが可変であるという性質上、発言に責任が持てないため、争いが発生した際にログイン済みの編集者がIP編集者と継続的かつ実のあるコミュニケーションをとることが難しいという意味では、IP編集者が紛争を引き起こしています。そのため、ほとんどのログイン済みの編集者は、IP編集者の意見を真摯に受け止めずに議論していると述べています。その件に関して、あるログイン済みの編集者は次のように説明しています。「議論に参加することを選ぶ人は、たいていウィキペディアでかなり経験を積んでいます。ウィキペディアをしばらく使っていれば、アカウントを作ることが推奨されていることがわかるはずです。それでもしないのであれば、何か根本的な悪意があるのだと思います」。別のログイン済みの編集者は、「IP編集者からの意見で、より良い方向に話が舵を切ったものは見たことがない」と言っています。

IP 編集と荒らし行為

- 荒らし行為は、IP編集者によって行われる傾向があるというのが編集者の共通認識です。
- 荒らし行為には、明らかなものと目立たないものがあります。

- 荒らし行為は、多くの人が閲覧する話題や、意見が分かれている話題で発生しやすい傾向にあります。
- 編集者は主に、明らかな荒らし行為に対処し、管理者は目立たない荒らし行為に対処します。しかし、管理者の数は十分ではありません。
- IP 編集に関する規則について、過去に何度も編集者が議論していますが、合意は得られていません。

ログイン済みの編集者の中には、IP 編集者が荒らし行為の主な原因であると強く非難する人もいれば、必要かつ正当な選択肢であると主張する人もいます。いずれの場合も、荒らし行為は匿名性を利用した IP 編集者によって行われる傾向があるという点では、両者とも同意しています。私たちがインタビューした巡回部隊は、IP 荒らし行為の特徴を次のように指摘しています。

- 明らかなものでは、誹謗中傷や改ざん
- 犯人は主に IP 編集者や捨てアカウント
- 目立たないものでは、捏造された情報や、特定の編集者の投稿に対する嫌がらせ行為
- 犯人は主にログイン済みの編集者であり、偽装工作や捨てアドも含まれる
- 特定の話題や、特定の利用者への粘着行為
- 追放された利用者の自作自演で、追放した利用者へに報復することが多い
- 犯人を特定することができない

荒らし行為は、多くの閲覧者が集まる記事で発生しやすいです。荒らされる頻度が高いのは、最近のメディアで取り上げられた話題や、政治や芸能人など意見が分かれる話題です。最近強烈に荒らされた記事といえば、2022年1月に亡くなった元東京都知事の石原慎太郎氏のもので、例を挙げると、悪戯として彼の写真が金正恩氏のものにすり替えられたりしました。（荒らされた箇所は現在、すでに削除され、記事は元に戻っています）。それに加えて、日本の鉄道など、熱狂的なファンがいる話題も荒らされる傾向にあります。

コミュニティは、2つの方法で荒らし行為に対処しています。明らかな荒らし行為は、通常、どの編集者が発見しても解決されています。荒らし行為が度を越している場合には、管理者が記事を保護し、犯人のアカウントや IP アドレスをブロックします。より目立ちにくい、あるいは執拗な荒らし行為については、ほとんどの編集者がどう対処してよいかわからないため、管理者に報告されます。しかし、私たちがインタビューした編集者たちは、人材不足が問題を修正するスピードを遅くしていると述べています。ある回答者は、管理者になるには、コミュニティの信頼を得るためにあまりにも多くの労力が必要なため、この問題が発生するのだと指摘しています。また、その作業自体の性質上、管理者は他の編集者から恨まれやすいということもあります。

編集者たちはすでに、IP編集に関する規則についてコミュニティ全体で何度も議論してきました。しかしこれまでのところ、意見が二極化しているため、同意を得ることができないでいます。例えば、荒らし行為を減らすためにIP編集を禁止すべきだという意見もあります。これに対して、ログインすることによって生じるマイナスな側面を回避したい人のために、重要な選択肢として残しておくべきだという意見もあります。

「匿名編集の機能によってもたらされる有意義な編集の数は、荒らしによる編集の数の千倍以上であることを知るべきです。荒らしは何を禁止しても現れますが、善意のIP編集者はログインが義務化されれば投稿をやめてしまうでしょう」 - 揉めてやる気をなくし、ログインして編集することをやめたIP編集者

ペルソナ

ペルソナの概要

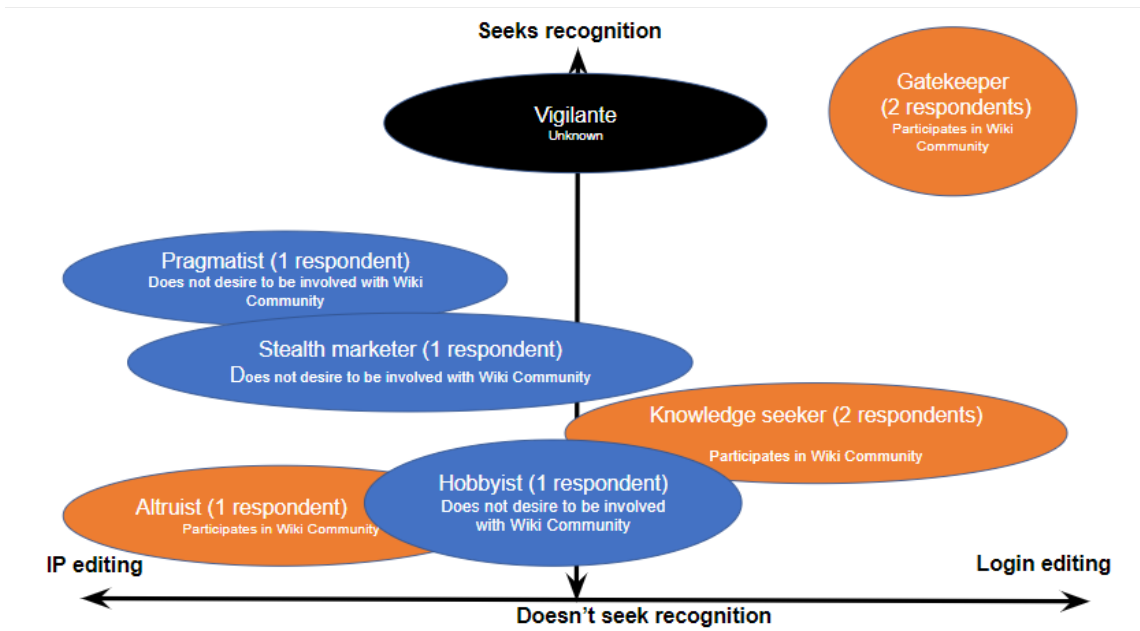
- ペルソナの2つのカテゴリー
- 知識ベース（ナレッジベース）に投稿するだけでなく、ウィキペディアのコミュニティにも参加する編集者。知識の探求者、門番、利他主義者
- 門番と類似点を持っていると思われる他の編集者による、「ウィキペディア自警団」と呼ばれる荒らし行為の一種
- コミュニティへの関与を望まない編集者。趣味人、実利主義者、ステルスマーケティング

インタビューの分析から、日本のウィキペディア編集者のペルソナは2つの種類に分けられることがわかりました。ひとつは、ウィキペディアのコミュニティに参加し、知識ベース（ナレッジベース）に貢献する人たちです。もうひとつは、コミュニティに参加することを望まず、ひたすら目的の記事を編集する人たちです。コミュニティ参加者のカテゴリーには、知識の探求者、門番、利他主義者の3種類のペルソナがあります。コミュニティへの参加を望まない人のカテゴリーには、趣味人、実利主義者、ステルスマーケティングの3種類のペルソナがあります。彼らは、ウィキペディアに関与する主な動機と、その他の重要な特徴によって区別されています。

コミュニティへの参加は、巡回、井戸端会議への参加、ウィキペディアのイベントへの参加を含みます。

ペルソナの代名詞の性別は、便宜上割り当てています。実際の回答者とは一致しません。

ペルソナの図：認知を求める傾向や、編集の仕方です測ったペルソナの特徴



図表 3

ウィキペディアのコミュニティに参加している

ケン：知識の探求者

- ログイン済みの編集者
- 知識を共有し、得ることが主な動機
- 巡回はしない
- ウィキペディアのイベントに行き、編集者仲間と会う
- IP 編集者に対して寛容

私たちがインタビューをした知識の探求者は、15年以上にわたってウィキペディアを編集してきました。彼はウィキペディアの翻訳にもボランティアとして参加しています。彼はいつもログインして、自分の編集について他

の編集者から直接意見をもらっています。編集の主な目的は、ウィキペディアの方針を尊重した形で知識を得て、共有することであるため、彼はフィードバックを前向きに受け止めています。しかし、巡回はほとんど行わず、読んでいる情報の中に誤りや欠落を見つけたときのみ編集を行います。

彼は、編集者たちがウィキペディアのコミュニティを拡大する方法について議論している、ウィキペディアのオフラインとオンラインのイベントに定期的に参加しています。このようなイベントに参加するようになったのは、記事の背後にいる人々についてもっと知りたいと思ったからで、彼らの膨大な知識の規模に惹かれたのです。

知識の探求者は、IP 編集者を含む様々な編集者に対して寛容です。荒らし行為の一部が IP 編集者に起因することは認めつつも、多様性を確保するために不可欠なメンバーであることを強調しています。

クミコ：門番

- ログイン済みの編集者
- 理想的なウィキペディアのコミュニティを作ることが主な動機
- 頻繁に巡回を行う
- 編集者仲間からは、ぶっきらぼうで威圧的な印象を持たれている
- 書いた記事は高い評価を得ている。インターネット上のすべてのアカウントで同じユーザー名を使用し、彼女のすべての投稿を1つのアカウントに紐づけている
- IP 編集者に対して嫌悪感を抱いている

今回取材した「門番」は、15年以上にわたって編集と巡回を続けています。荒らし行為を警戒するために、最近編集したページやよく編集するページ、過去に編集したページ、得意な話題などをウォッチリストに追加しています。

編集を始めたきっかけは、自分の専門分野のページで見つけた誤りを訂正したくなったためでした。彼女はウィキペディアのコミュニティを正しい方向に保つために尽力していると感じているため、他の編集者が誤りを犯したときには躊躇なく指摘します。この態度によって、過去に他の編集者と衝突を引き起こしたことがあります。例を挙げると、彼女は議論中に他の編集者の誤った発言を「嘘」と呼び、その編集者は後に自分のトークページで、それはうっかりミスに過ぎないため、彼女の発言は攻撃的で中傷的であると訴えたことがあります。また、彼女がとある編集者に、彼らの記事のどこが悪いかについて長文のメッセージを送ったとき、「威圧的」であるとも言われました。ウィキペディアのコミュニティは敵対的であると思うかという質問に対して、彼女は次のように答えています。

「私は、自分がずけずけと物を言う人間であると認めています。それは、自分の言葉を聞こえの良い物にしたり、他の編集者との心地よい関係を維持することよりも、ウィキペディアの方針を守り、よりよいコミュニティを作ることを優先しているからです」 - 門番、クミコ

門番は、ウィキペディアでの自分の仕事に誇りを持っています。彼女の利用者ページは、投稿と業績の詳細で精巧に埋め尽くされています。また、ウィキペディアやツイッターなど、すべてのオンラインアカウントで同じユーザー名を使い、オンライン上の活動を1つのプロフィールに結びつけています。そういった意味では、ユーザー名は偽名でありながら、本質的には本名と同じくらい自分を明らかにするものであると彼女は言います。

彼女はIP編集者を警戒しており、彼らはウィキペディア内の混乱を引き起こす重大な要因であると述べています。

門番の下位互換：ウィキペディア自警団

- ウィキペディアの記事を自分たちの基準に合うようにコントロールすることが主な動機

2人の編集者がインタビューの中で、「ウィキペディア自警団」の存在に触れています。回答者の1人は、他の編集者が書いた記事が、巡回者の解釈するウィキペディアの方針と一致しないとき、嫌がらせやストーカー行為をする者がいると述べています。これらの「ウィキペディア自警団」はあまりにも熱心に巡回する傾向があり、彼らの基準に基づいて、誤った編集をした経験の浅い新人編集者をブロックし、「新人」ではなく「荒らし」のレッテルを貼ります。「ウィキペディア自警団」の中には、自分の気に入らない編集者にストーカー行為や嫌がらせをする者までいます。また、ある編集者は、彼らが不当であると判断した編集を、執筆者に相談することなく、即座に取り消す事件があることを話しています。例えば、偏った編集や扇動的な編集をした場合、執筆者にその点を修正するよう提案するのではなく、彼らはその編集を即座に取り消します。このような強引な取り締まりは、否応なく最終的な決定として受け入れられてしまうことが多く、より平和的なコミュニケーション手段を選ぶ編集者は、やがて争いで疲れ果ててしまいます。

自警団のプロフィールについては、ペルソナを形成するのに十分な根拠がありませんが、自警団は、ウィキペディアにとってふさわしいと信じるものを実現するために頻繁に巡回を行うため、門番の下位互換であると判断しました。

ユウト：利他主義者

- IP 編集者
- ウィキペディアのコミュニティを発展させ、争いに巻き込まれずに保護することが主な動機
- 争いに巻き込まれた後、ログインするのをやめた
- 称賛は必要ないと考えている

「利他主義者」は 15 年以上にわたってウィキペディアの編集と巡回を続けています。彼は自分の専門分野の話題を編集することから始めました。ウィキペディア歴の前半はログイン済みの編集者でしたが、争いに巻き込まれた後、しばらく投稿をやめました。その後、彼は IP 編集者となりました。問題となった議論の際、他の編集者から、彼の書いた内容について異議を唱えられました。その主張を支える徹底した根拠を示し、多くの編集者の支持を得たにも関わらず、最終的には相手の意見が採用されました。この出来事を彼は非常に不公平であると感じ、ウィキペディアに投稿する意欲が著しく低下しました。彼はその後数年間、ウィキペディアへの投稿をやめました。

「私はその論争の結果にとっても失望し、何年も編集するのをやめました。自分の専門分野の記事が荒らされ、間違っ​​て編集されても、気にしなくなりました。そのアカウントにログインし直すこともありませんでした」 - 利他主義者、ユウト

この利他主義者は、ウィキペディアを閲覧中に、経験の浅い編集者が自警団から嫌がらせを受けているのを偶然見つけ、IP 編集者としてウィキペディアに再び投稿するようになりました。自分の専門知識を生かして場に介入し、その編集者を助けました。IP 編集者として頻繁に編集や巡回を行っているため、もうログインする予定はありません。彼は、自分の知識をウィキペディアに投稿することだけが目的のため、その記事が彼の功績によるものだと認定される必要はないと考えており、そのためログインも必要ではありません。

ウィキペディアのコミュニティに関わることを望んでいない

エミ：趣味人

- ログインしての編集と IP 編集を交互に繰り返す。他の編集者との衝突を避けたいときは IP 編集を選択する
- 他の編集者との衝突を避けられる範囲で、記事を書いて楽しむことが主な動機
- インターネット上のコミュニティは敵対的だと考えているため、ウィキペディアのコミュニティには参加しない
- IP 編集のセキュリティリスクには関心がない

この趣味人は、もともと趣味で文章を書くのが好きのため、ここ 2、3 年、時々ウィキペディアの記事に寄稿しています。巡回はせず、閲覧していたページを編集しています。彼女の最大の特徴は、ログインしての編集と匿名での編集を交互に行うことです。生年月日や名前など、さほど重要でない具体的な事実を編集するときはログインしています。大きな部分を編集するときは、匿名で編集しています。これは、投稿の量が多ければ多いほど、他の編集者が攻撃するようなミスを犯しやすいからです。この趣味人にとっては、自分の功績が認められることよりも、批判されないことの方がはるかに優先度が高いのです。彼女は、自分の書いた内容が公に非難されることを深く恥ずかしく思っています。

趣味人は、オフラインであれオンラインであれ、対立を避ける傾向にあります。オンラインハラスメントを直接経験したことはありませんが、ウィキペディアで攻撃されることへの恐怖は、2ちゃんねるやヤフージャパンのコメント欄など、敵対的なネット利用者が有名なさまざまなインターネットコミュニティで観察したものから来ています。彼女はウィキペディアも同じだと考えています。そのため、彼女はウィキペディアのコミュニティーに参加するつもりはありません。

IP アドレスが公開されても、名前、住所、銀行口座などの重要な個人情報には明かされないと考えているため、彼女にとって問題ではありません。

タロウ：実利主義者

- IP 編集者
- 自分が詳しい話題についてウィキペディアに投稿し、それを楽しむことが主な動機だが、正当な報酬が得られない限り無理をしたくないため、規模は限定的

- ウィキペディアのコミュニティに参加することは、金銭的な報酬を受け取らない限り、時間の無駄だと考えている
- IP 編集のセキュリティリスクには関心がない

この実利主義者は、自分が詳しい話題についてウィキペディアに投稿しており、その数は10年間でおよそ10記事です。例を挙げると、彼は公人である親戚のページを好意で作成しました。アカウントを作るのが面倒なので、編集の際にはログインしていません。趣味人同様、匿名で編集しても、重要な個人情報につながらないと考えているため、IPアドレスがバレることを気にしません。

この実利主義者は、巡回や議論に参加するのは面倒だと考え、それらを行いません。また、争いは醜く、時間の無駄と考えており、見下しています。彼はアカウントを作ってコミュニティに参加することのメリットを理解していません。自分の作業に対して何らかの金銭的報酬を得ることができれば、ウィキペディアのコミュニティにより深く関わるができるかもしれないと提案しています。

「閲覧数の多い記事の執筆者に、ウィキペディアが報酬を支払うというのはどうでしょう？」 - 実利主義者、タロウ

とはいえ、彼はウィキペディアのポリシーに精通しているわけではないため、他の編集者から批評を受けるのはありがたいことだと思っています。

カナ：ステルス marketer

- 仕事として、自分の会社やブランドを宣伝するためにウィキペディアを編集することが主な動機
- 仕事以外でウィキペディアに投稿したことがない
- IP 編集のセキュリティリスクには関心がない

ステルス marketer は、それが仕事の一部であるという理由だけで、特定の製品/人物や、ブランドを宣伝するためにウィキペディアを編集しています。彼女は仕事以外でウィキペディアに投稿したことはありません。彼女は、自分が宣伝する対象のウィキペディアのページを作り、それが荒らされないようにします。対象のウィキペディアのページを持つことは、認知度を高め、良いパブリックイメージを維持するために不可欠です。

「ウィキペディアに自発的に投稿する人がいることに驚いています。彼らを理解できません。私は仕事だからやっているだけです」 – ステルスマーケティング、カナ

彼女が匿名で編集するのは、仕事のためにいちいちログインするよりも手間がかからないからです。また、匿名での編集は、頻繁にそのページに関わる利用者アカウントを設定するよりも、ステルスマーケティングの一形態として露骨ではありません。趣味人や実利主義者と同じように、彼女は IP アドレスの公開が直接プライバシーを害するとは考えていません。また、彼女は自分の仕事だからやっているのであって、自分の書いたものが称賛される必要性を感じておらず、それに愛着も感じていません。

結論

インタビューを行った編集者たちは、IP 編集が荒らし行為の主な原因の 1 つであることを認めています。その内の IP 編集者たちは、IP 編集機能があるおかげでウィキペディアに投稿できていることを強く感じています。彼らは、自分の IP アドレスが晒されることによるプライバシーリスクには主に無関心です。

コミュニティ内の紛争は、ログイン編集者と IP 編集者の両方に等しく大きなストレスを与え、ログイン編集者が IP 編集に切り替えたり、編集をあきらめたりするほどになっています。しかし、もしウィキメディアが日本の IP 編集者を支援する方法を見出すことができれば、日本のウィキメディアは強固に拡大・発展する可能性が高いです。

以上

追加の引用

Q: コミュニティに参加しようと思ったきっかけは何ですか？

「ゼロから記事を作成していますが、論争に巻き込まれたくないので、他の人が書いた記事にはコメントしません」

「オンラインやオフラインのウィキペディアのイベントに参加しています。編集だけしていると、記事の背後にいる人のことを知りません。実際に編集している人のことをもっと知りたいと思い、イベントに参加しました。最初は他の人に編集のコツを聞いたりしていましたが、編集に慣れてくると、積極的にコミュニティを広げようという話になりました」

「調べたことをブログに書いたとしても、いずれサイトが消えてしまい、せっかくの努力が無駄になってしまうので、それならウィキペディアに書いた方がいいと思いました」

「自分の興味のある話題が未開拓でした」

「一人で記事を完成させることはできません。編集者たちが協力する必要があります」

「自分の専門分野の話題に関して、間違っただけの情報があるのが嫌でした」

Q：日本語版ウィキペディアを使っている人たちが、ログインしたくないと思う理由はそれぞれ何だと思いますか？

「自分が編集したものが修正されると恥ずかしいし、ダメージが大きいからです」

「情報漏えいを避けるためです」

「ログインするのが面倒だからです」

「他の編集者との軋轢を避けるためです」

「面倒なことに巻き込まれたくないという理由から、ある程度経験を積んだ編集者が編集に対して臆病になることが多いように感じます」

Q：日本のウィキペディアについて知っておくべきことは何だと思いますか？日本文化における匿名性について聞かせてください。

「2ちゃんねるは、日本のインターネット文化におけるネットの匿名性の地盤を築きました」

「匿名だとネットに否定的な意見を書きやすいです」

「ユーチューブでユーザー名が見える状態でコメントしても、普通は他の利用者が何か言ってきたりしないので気になりません。しかし、ウィキペディアでログインしていると、他の編集者が私を攻撃しやすくなると思います」

Q：ウィキペディアに匿名でいると言うのはどういうことですか？

「ポリシーを守り、人としての良識を持って他者に接する限り、人々が自由に編集や発言をできるようにし、安全に活動するために必要な制度であると理解しています。ただし、悪用される可能性もある制度なので、メリットとデメリットのバランスをとることは難しいです」

「匿名で記事の内容を編集すると、アカウントで個人を特定されなくなります。実在の人物と関わりを持ちたくないという意味合いもあります」

「多くの編集者がアカウントを作らないのは、ウィキペディアに継続的に投稿するつもりがないからです」

Q：コミュニティの力学について教えてください。どちらかと言えば協力的だと思いますか？それとも競争的でしょうか？

「利用者と交流したことがないのでわかりません」

「記事に関わる編集者が多ければ多いほど、対立が起こりやすいです」

「物議を醸す話題では互いの意見が食い違うため、編集者間で敵対心が生じやすいです」

「熱狂的なファンがいる芸能人の記事では、衝突が起こりやすいです」

「派閥を組んで争いを起こす編集者もいます」

Q：敵意を持ったコミュニティの動きは、IP編集と関係があると思いますか？

「全く思いません」

「敵意は IP 編集と深く関係していると思います。IP アドレスが変動することによって、ログイン済みの利用者との話し合いに比べ、編集者が建設的なコミュニケーションを取るのが難しくなっているのだと思います。また、IP 編集者の多くは、一時的な利用で終わってしまいます。IP 編集者によるコミュニケーション不足が、紛争を引き起こしているのです」

「はい。無視できないほど多くの IP 編集者がいます」

Q: 編集する際に、ログインを強制することは妥当だと思いますか？

「ログインが必須になれば、編集することを躊躇すると思います」

「ウィキペディアへの投稿量が減ると思います」

「ウィキペディアに初めて参加する編集者のハードルを上げ、参加意欲を削ぐかもしれません」

「賢明ではありません。日本語版ウィキペディアは重要な投稿を失うことになるでしょう」

「内容を充実させるために必要なことかもしれません」

Q: 編集の動機は何ですか？

「私にとっては、多くの人に自分の記事を読んでもらい、資料として活用してもらうことです。悪意のある編集者に悩まされることなく編集できることは、モチベーションを維持する上で重要な要素だと思います」

「自分の投稿を評価してくれる人がいることを知っているからです。自分の知識を提供することで、人助けになるとわかっています」

「自分の専門分野について間違った情報があると嫌なので、それを修正しています」

Q: 荒らし行為に対処するために使われているツールで、日本のコミュニティの役に立ったと思うものがあれば教えてください。

「日本語版ウィキペディアの利用者は、荒らしや不適切な利用者に関する情報をツイッターや 5ちゃんに投稿しており、荒らし行為への対策に一定の役割を果たしています。当然、投稿された情報の正確性は検証する必要があります」

「いいえ。荒らし行為への対応はマンパワーに頼っています」

「多くの IP 編集者が投稿したことを示すウォッチリストや、最近の更新通知です」

「そういったものは存在しません。自動翻訳ですら精度が低いという AI 開発の現状で、荒らしに自動で対処するプログラムを作るのは難しいと思います。仮にあったとしても、間違いを犯すことは確実で、誤認された利用者は腹を立てるどころではないでしょう」

Q: 日本語版ウィキペディアをログインせずに編集できることは、荒らし行為の発生の一因になっていると思いますか？そう考える理由を聞かせてください。

「それが一因になっています。ログインせずに編集できることは、荒らしを目的とする編集者にとっては確かに便利です。アカウントを取得したり、ログインしたりする手間をかけずに荒らすことができるのですから。動的 IP アドレスを使用できれば、範囲ブロックが効かないので、その人たちは自由に荒らすことができます。事実上、罰則もありません」

「IP 編集は確かに荒らし行為を助長します。けれど、IP 編集がもたらすメリットを否定してはいけません」

「ある程度はそうです。しかし、IP 編集を禁止すれば、ウィキペディアの成長を遅らせることとなります」

Q: IP アドレスからの投稿が多い話題があることに気づきましたか?

「有名人に関する記事です」

「政治的に敏感な話題です。編集者は自分のアカウントが特定のイデオロギーに縛られるのを避けるため、匿名で編集する傾向があります」

「IP 編集者からの投稿が少ない記事は、書くのに専門的な知識が必要な学術的なものです」

Q: IP 編集者は、IP アドレスに関連するプライバシーの懸念について知っていると思いますか?

「プロバイダに問い合わせない限り、IP アドレスから自宅の住所などを特定されることはないと思います。だから、その点については問題ありません」

「その情報だけで身元がバレる可能性はないので、心配はないでしょう」

「技術に詳しい人でないとわからないと思います」

「IP アドレスが公開されているからと言って、重要な個人情報がすぐにバレるわけではありません」

Q: 荒らされやすい話題があることは知っていますか?

「メディアで話題になった話題は荒らされる傾向にあります」

「普段ウィキペディアを利用しない人にも届く話題です」

Q: どの話題が最も荒らされやすいですか?

「有名人、スキャンダル、ゴシップです」

「ニュース（テレビだけでなく、インターネット上のニュースも含む）や新聞で報道された話題は荒らされることが多いです。また、政治的な話題やイデオロギーに関する話題（右翼とリベラルの見解、宗教の話題、人権、過激なフェミニストとの記事）なども荒らされるようです」

Q: コミュニティは荒らし行為にどう対処していますか?

「可能であれば、IP ブロックングを行っています。IP アドレスを特定するのは難しいことが多いので」

「ログイン済みの利用者の場合、そのトークページに警告を書き込みます」

「荒らし行為があからさまな場合は、システムで検知できる場合があります」

「管理者や善意の利用者は荒らされた箇所を元に戻しますが、これでは根本的な解決にはなりません」

「まずは気づいた編集者が（アカウント登録の有無に関わらず）記事を元に戻すことが先決です。問題が続くようであれば、管理者や権限のある人が対処することになります」

Q: 日本語版ウィキペディアだけでなく、他言語のウィキペディアの編集経験がある場合、両者にはどのような違いがありますか?

「日本語版は更新頻度、百科事典としての基本項目の充実度、ともに劣っています」

「日本語版と比較すると、利用者数、更新頻度、内容において外国語版の方が優っています。テンプレートやデザイン的面では、フランス語版やイタリア語版の方が洗練されていて使いやすく、魅力的です」

「英語版には、日本人研究者の最新の研究成果が載っていたとしても、古い研究や、誤った研究に基づく記事も掲載されています」

Q: 巡回する際に気をつけていることは?

「どの記事が、誰によって、どのように変えられているのかを見ることです。特に、他の人に嫌がらせをしている利用者がいないかどうかをチェックしています」

「荒らしやそれに類する行為、新人による不必要な改変がないかを確認します」

Q: 日本語版ウィキペディアが、他言語のウィキペディアに比べて IP 編集に寛容なのはなぜだと思いますか？

「日本人は匿名での手助けが好きです。例えば、落し物を警察に届ける際に身分を明かさずに届ける人がいます」

「ウィキペディアは百科事典としてはかなりレベルが低いので、正確性に関して寛容です」

「編集内容を自分の手柄にしたい人が少ないのでしょうか。特に、気まぐれに投稿するような人は」

「日本人は人の陰口を言うのが好きだからです」

「インターネット文化では昔から匿名性が重視されており、インターネット上で実名やそれに準ずる名前を出すことに強い警戒心を持つ利用者が多く、そのため彼らは匿名で編集しています」

「2ちゃんねるの影響です」

「IP 編集者が編集しても気にしない人が多いです」

Q: ログインしないことを徹底している IP 編集者個人を知っていますか？

「井戸端会議では、IP 編集者はアカウントを取得するように言われることが多いですが、取得するつもりはないと宣言する人もいます」

Q: 日本語版ウィキペディアでは、IP 編集者による荒らし行為はどの程度あるのでしょうか？

「頻繁に起こります。荒らし行為を調査してみると、犯人は IP 編集者であることが多いです」

「見たことはありません」

「最近編集された記事の 10 件に 1 件は見つけられるでしょう」

Q: IP 編集のセキュリティリスクについて、コミュニティで議論されているのを見たことがありますか？

「はい、あります。井戸端会議だったかお知らせだったかは忘れましたが、IP 編集者の IP アドレスを見えなくしようという議論があったように記憶しています」

「はい。しかし、彼らはそのリスクを気にしていませんでした」

Q: ポルトガル語版ウィキペディアでは、最近 IP 編集が禁止されました。このことは日本語でも議論されていますか？

「聞いたことはありません」

Q: 日本語版ウィキペディアで、IP 編集を禁止することは理にかなっていると思いますか？

「編集者の数が激減すると思います。ウィキペディアの良さは、知識があれば誰でも編集できることです。もしアカウントを作る必要があるなら、単なるオンライン辞書になってしまうでしょう」

「日本はポルトガルを見習うべきだと思います。正体不明だからと何でも書けると思っている人がいるので」

「荒らしの数は減りますが、投稿の量も減ります」

「IP 編集を禁止し、アカウント登録を必須にすれば、荒らしは減るに違いありません。ただし、管理者の数も減り、彼らの負担も減るでしょう」

「ウィキは誰でも編集できるため、信頼性が低いです。けれど、編集にアカウントが必要になれば、記事の種類は減ります。タイムリーな話題の記事は一部の人しか投稿できないので、利用できなくなるかもしれません」

「はい、理にかなっています。もちろん、デメリットもありますし、現在 IP 編集で編集を行っている利用者はそのためにわざわざアカウントを取得したりはしないでしょう。しかし、IP 編集者による投稿は、率直に言って、すごく価値のあるものだとは言えません」

「そうなる可能性は低いと思います。経験豊富な編集者は、井戸端で提案することは無駄な努力であると理解しています」